

伏樋ノ上、即ち横渠内ノ通航路ヲ妨ケサランガ為ニ伏樋ヲ十分深キ水底凡ソ低水ノ下ニ尺ノ下ニ着マシムヘシ。横渠ノ両側各一個ノ溜池ヲ設ケ伏樋ヲ其町ニ通ス。伏樋ノ底ヨリモ一段溜池ノ底ヲ深クナス下尺ニ尺ニシテ常ニ此深サヲ保存シ置クベシ。

伏樋ノ上口ニ於ケル溜池ハ吉野川ヨリ引キ来レル水ヲ常ニ充満セシメ其下口ニ於ケルノ溜池ヨリシテ鍋川大手灌漑水ヲ引クモノトス。

若シ別ニ撫養ノ地ヨリ吉野幹流ニ溯ルヘキ航路ヲ南カント欲セバ早晚ヲ論ゼズ新川ニ改良ヲ加エ以テ之ニ供用スヘシ此新川ノ一派ヲ吉野川末流ニ南通スレハ上流(A)字ノ所ニ達シ平常此所ニ開放スル水閘ヲ過キテ幹流ニ入ルヘキ航路トナルヘシ。

徳島港 別宮川

伏樋の上、すなわち横堀内の通航路を妨げないように、伏樋を十分に深い水底、およそ低水下二尺の深さに埋めるべきである。横堀の両側に各一か所の溜池を設けて、伏樋をその間に通す。伏樋の底よりも一段と溜池の底を深くすること約二尺にし、常にこの深さを保つべきである。

伏樋の上口に当たる溜池は、吉野川より水を引き入れ、常に充満させておく、その下口の溜池から鍋川大手（松茂町大手）の灌漑水を引き入れるようにする。

もし別に撫養の地から、吉野川の幹流にさかのぼる航路を開くのならば、すぐに新川（新池川）に改良を加えこれを航路に当てるべきである。この新川の流れを吉野川の末流（旧吉野川）に通ずるならば、(A)字の所まで達し、いつもはここに開放されている水門（閘）を通過して吉野川の幹流に通ずる航路となるだろう。

徳島港。 別宮川

現今徳島港ハ別宮川内古川渡津ニ在リ海濱ヲ距ル一里半ニシテ徳島市街ヲ隔ツル半里ノ地ナリ
 別宮川口ノ内外ニ方リ沙灘アルカ爲ニ該川口ヲシテ海港トナスニ不適當ナラシム此昔三十四葉中已ニ之ヲ説ク別宮川及ビ其川口ハ水流整理工ト馬頭工トノ設置ヲ以テ之ヲ修治シ得ベシ。此川ノ水流已ニ整理ヲ受ケ且ツ第十堰撤去ニ由リ水量ニ増加アラハ則チ尋常ノ和船ト内海往來ノ汽船トノ爲ニハ必ス不足ナキ深リヲ此ニ保ツ可キナリ、於是横瀬川例スルニキモンドノ渠ノ如キヲ廢ク且ツ深カラシメハ又タ和船ト共ニ貨物ヲ滿載シテ直ニ市街ノ中ニ入ルヲ得ヘシ。其然リト虽改修ノ費用ハ着シク大ナルヘシ殊ニ時々波濤ノ難ニ暴露セル別宮川ニシテ漠タル沙灘ノ上ニ工事ヲ施スノ一役主トシテ之ナリ。該川口ハ南東ト北東トノ向ヨリ未ス暴風ニ何ヘリ此ヲ以テ施工ニ先タチ濤メ瓦浪大起ニ当リ能ク碎ケザルノ虞ナキ片ハ後日ニ至リ該工ヲ維持スルノ費用ハ更ニ大ナラザルヲ得サルモノナリ

現在、徳島港は、別宮川の中の古川の渡し場であり、海岸からは一里半、徳島市街地からは半里、離れている。別宮川川口周辺に沙灘があるために、この川口を海港とするのは不適當である。この書の三四枚目に、すでにこの事を説いている。別宮川及びその川口は、「水流整理工」と「馬頭工」を設置して、この両者を補修すべきである。この川の水はすでに整理を受け、その上、第十堰の撤去により、水量が増加すれば、普通の和船と内海往來の汽船とのためには不足しない深さを保つことが出来る。

そこで、横の派川、例えばキモンド堀のようなものを広く深くすれば、貨物を満載した和船を市街地に入れることが出来るようになる。しかしながら、その改修費用は膨大なものとなる。殊に波とうの被害を受けている別宮川は、ぼう漠たる沙灘の上に施工するため、最も主要な問題が費用となる。

この川口は、南東と北東との間から吹いて来る暴風に面している。このため、工事に先立ち、あらかじめ風浪が当たって砕かれないうように考えておかないと、うかうかと工事をするとなつて、工作物を維持するのに大変な費用となる。

※1三四枚目
 本復命書では五五ページ

※2キモンド堀
 鬼門堂みぞのこと。徳島市大岡川の北への延長にあたり現在の堤防から百メートル以上北の堤外地にあった堀。